

令和3年度全国学力・学習状況調査 ～御浜町の結果概要～

令和3年10月1日 御浜町教育委員会

1. 各教科の「平均正答率」及び「平均正答数」

【小学校】 6年生:63名	国語	算数
御浜町	57% (8.0/14問)	64% (10.3/16問)
三重県	64% (9.0/14問)	69% (11.1/16問)
全国	64.7% (9.1/14問)	70.2% (11.2/16問)
平均無解答率 (御浜町)	4.7%	3.0%
平均無解答率 (全国)	4.3%	2.6%

- ・町平均正答率は、全国平均との比較では、国語、算数ともに全国平均を下回り、平均正答数でそれぞれおよそ1問分下回っています。
- ・また、町平均無解答率は、2教科とも全国平均より若干上回りますが、ほぼ同程度のレベルであり、今年度の小学6年の児童たちも、例年のように最後まであきらめず粘り強くテストに取り組んだことが伺われます。

【中学校】 3年生::63名	国語	数学
御浜町	63% (8.8/14問)	60% (9.5/16問)
三重県	63% (8.8/14問)	58% (9.2/16問)
全国	64.6% (9.0/14問)	57.2% (9.1/16問)
平均無解答率 (御浜町)	3.5%	10.3%
平均無解答率 (全国)	4.4%	11.2%

- ・町平均正答率は、国語で全国平均をわずかに下回ったものの三重県平均と同じ正答率となっています。また、数学においては全国平均も三重県平均も上回る結果となりました。
- ・町平均無解答率も、国語、数学ともに全国平均より低く、中学3年生たちも最後まであきらめずに本当に粘り強くテストに取り組む姿勢を見せてくれたと言えます。
- ・ただし、数学の平均無回答率は全国より低くなっていますが、およそ10%と高い水準にあります。これは全国の傾向と同様に、数学的な説明や表現を求める問題が多かったことによるもので、今後このような問題への習熟等の課題を踏まえて授業改善に取り組んでいく必要があります。

- ・さらに、中学3年生が小学6年時（H30年度）に受けた本調査では、主に活用の力を問う国語Bと数学Bにおいて全国平均正答率を下回っていたのですが、知識と活用を一体的に問う今回の調査では、数学において全国平均を3ptも上回り、学力面でも着実に成長している様子を見せてくれました。

H30年度（小学6年）		⇒	R3年度（中学3年）	
国語A	+1 pt		国語	-2 pt
国語B	-2 pt			
数学A	0 pt		数学	+3 pt
数学B	-4 pt			

～ 平均無解答率の改善について ～

以前は、国語でも算数・数学でも長文の問題が出題されると、問題も読まずに最初から解答をあきらめてしまう児童生徒も少なくありませんでした。

しかし、ここ数年、町内の小中学校では、全国学力・学習状況調査やみえスタディ・チェックなどのテストで、「わからなかった問題やできなかった問題を、できるようになるまで取り組もう」と、丁寧な指導に取り組んできました。また、定期テストや普段の授業においても、簡単にあきらめてしまわず粘り強く考えようという指導にも丁寧に取り組んできました。

そのような各学校での継続的な指導の結果、前ページの表からもわかるように、近年、町平均無解答率が減少する傾向（粘り強い姿勢で学習に取り組もうとする児童生徒が増えている）にあり、町内児童生徒たちの着実な成長につながっています。

《参考》「標準化得点」による経年変化の比較

全国学力・学習状況調査の各教科の問題は、毎年問題数や難易度等が異なることから、各年度の平均正答数や平均正答率だけで単純な比較はできません。

そこで、御浜町における経年変化を比較するために、文部科学省が作成した「標準化得点換算ツール」を使用して、その年の全国平均正答率を100とした場合の御浜町における得点状況を「標準化得点」として算出しました。その結果が次の表のようになります。（令和2年度は中止）

小学校	令和3年	令和元年	中学校	令和3年	令和元年
国語	96	99	国語	99	99
算数	97	101	算数	101	100
全国	100	100	全国	100	100

- ・「標準化得点」でこの2年間を比較してみると、小学校では国語・算数とも前年度を3～4ポイント下回りましたが、全国平均からの差も3～4ポイント程度に収まっていることがわかります。
- ・また、中学校では国語で前年度と同じくほぼ全国並み、数学で全国を上回るとともに、前年度よりも1ポイント上回っていることがわかります。

2. 各教科における特徴的な傾向

【小学校】

国語	<p>《学習指導要領の領域ごとの平均正答率》</p> <p>○全国より高い…「書くこと」、「言葉の使い方に関する事項」 知識や技能を問う問題「文の中における主語と述語の関係を捉える」については、正答率70%と、全国平均を3pt上回る</p> <p>●全国より低い…「話すこと・聞くこと」、「読むこと」 話すこと・聞くことに関する問題「話の内容が明確になるようにスピーチの構成を考える」については、正答率59%と全国平均を19pt下回る</p>
算数	<p>《学習指導要領の領域ごとの平均正答率》</p> <p>○全国より高い…「数と計算」、「変化と関係」 数と計算に関する記述式の問題「二つの道のりの差を求めるために必要な数値を選び、その求め方と答えを記述できる」については、正答率68%と全国平均を6pt上回る</p> <p>●全国より低い…「図形」、「データの活用」 図形に関する短答式の問題「三角形の面積の求め方について理解している」については、正答率37%と全国平均を18pt下回る</p>

【中学校】

国語	<p>《学習指導要領の領域ごとの平均正答率》</p> <p>○全国より高い…「書くこと」、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」 伝統的な言語文化と国語の特質に関する問題「事象や行為などを表す多様な語句について理解する」については、正答率77%と全国平均を3pt上回る</p> <p>●全国より低い…「話すこと・聞くこと」、「読むこと」 話すこと・聞くことに関する記述式の問題「話合いの話題や方向を捉えて、話す内容を考える」については、正答率50%と全国平均を7pt下回る</p>
数学	<p>《学習指導要領の領域ごとの平均正答率》</p> <p>○全国より高い…「数と式」、「図形」、「関数」 関数に関する短答式の問題「関数の意味を理解している」については、正答率が66%と、全国平均より18pt上回る</p> <p>●全国より低い…「資料の活用」 資料の活用に関する記述式の問題「データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する」については、正答率が7%と、全国平均を4pt下回る（無回答率も36%と高い…習熟が必要な新しい傾向の問題）</p>

*御浜町全体としては、小学校、中学校ともに上記のような特徴的な傾向が見られます。今後は、各小中学校において、各教科とも「全国より低い」領域を中心に、正答率が低い問題や、習熟が必要な新しい傾向の問題の定着を図るとともに、これらの特徴や傾向から明らかになってきた指導方法についても改善に取り組む計画です。

3. 児童・生徒質問紙調査における特徴的な傾向

「児童・生徒質問紙調査」とは、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査です。

ここでは、肯定的な回答が多かった質問に焦点を当て、御浜町の児童生徒の特徴的な傾向を示している質問とその回答を取り上げて分析（コメント）します。

学びの充実に向けて

【小学校】

* 肯定的な回答の割合

質問項目	御浜町	全 国	全国との比較
算数の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考える	89%	83%	+6pt
算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考える	100%	93%	+7pt
5年生までに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていた	86%	81%	+5pt
学校に行くのは楽しいと思う	95%	83%	+12pt

【中学校】

質問項目	御浜町	全 国	全国との比較
数学の勉強は好きだ	67%	59%	+8pt
数学の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考える	67%	51%	+16pt
1、2年生のときに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていた	83%	74%	+8pt
学校に行くのは楽しいと思う	94%	81%	+13pt

◎算数や数学の学習に対する意欲や関心の高さがうかがえ、そのことが中学数学の学力調査での平均正答率の高さにつながっていると考えられる。

◎町内の小中学校は比較的小規模な学校が多いということも相まって、各学校でのきめ細やかな指導を肯定的に受け止めている児童生徒も多く、そのことが学びへの意欲や前向きな姿勢につながっていると考えられる。

◎小中学校ともに、国語に関する設問に対しても算数・数学と同様の傾向が見られ、町内の児童生徒は、授業や学習に対して真面目に取り組もうとしている様子が見られる。

家庭学習・生活習慣について

【小学校】

質問項目	御浜町	全 国	全国との比較
家で自分で計画を立てて勉強をしている（学校の授業の予習や復習を含む）	81%	74%	+7pt
学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たり1時間以上、勉強をする	68%	63%	+5pt

【中学校】

質問項目	御浜町	全 国	全国との比較
家で自分で計画を立てて勉強をしている（学校の授業の予習や復習を含む）	62%	64%	-2pt
学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たり1時間以上、勉強をする	54%	76%	-22pt

◎家庭学習に計画的に取り組む姿勢や意欲については、小学校では 81%と全国を 7pt 上回っており、家庭学習習慣が定着してきていることが伺える。しかし、中学校では 62%と小学校より低くなっており、逆に中学校では課題のひとつとなっている。

◎また、学習時間（1 日あたり 1 時間以上）についても、小学校では全国を 5pt 上回っているが、中学校では 54%と 22pt も下回っており、半数近くの中学 3 年生が十分に学習習慣を身につけていない状況がある。中学 3 年生は受験等を控えていることもあり、自分の進路希望を実現していくための進路指導とあわせて、自主的な学習時間の増加と計画的な家庭学習の定着を図ることは、町内中学校における指導上の課題である。

◎今後もこれらの結果を踏まえ、家庭との連携や協力を深め、規則的な生活習慣を身につけるとともに、毎日の生活の中に学習習慣（学習時間）をしっかりと位置付ける指導を図っていく必要がある。

自尊感情・目的意識について

【小学校】

質問項目	御浜町	全国	全国との比較
自分には、よいところがあると思う	78%	77%	+1pt
将来の夢や目標を持っている	78%	80%	-2pt
難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している	65%	71%	-6pt

【中学校】

質問項目	御浜町	全国	全国との比較
自分には、よいところがあると思う	75%	76%	-1pt
将来の夢や目標を持っている	79%	69%	+10pt
難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している	70%	66%	+4pt

◎小学校、中学校ともに自分によいところがあると思っている回答は全国とほぼ同じ割合で、多くの児童生徒が比較的高い自尊感情を持っているといえる。

◎夢や希望を持っている、挑戦しているという目的意識や意欲を問う質問に対しては小学生より中学生の方が高い傾向がある。特に中学生では将来への夢や希望を持っている生徒が全国より 10pt も高く、3 年間を見通したキャリア教育の推進が成果を挙げているといえる。

◎また、家庭学習には課題があるものの、このような目的意識の高さやチャレンジ精神が、国語でほぼ全国平均と同じ、数学で全国平均を上回るなど、学力向上の面にも好影響を及ぼしていることが伺える。

地域との関わり、社会への関心について

【小学校】

質問項目	御浜町	全国	全国との比較
新聞を読んでいる	19%	15%	+4pt
今住んでいる地域の行事に参加している	72%	58%	+14pt

【中学校】

質問項目	御浜町	全国	全国との比較
新聞を読んでいる	21%	10%	+11pt
地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある	46%	44%	+2pt

◎新聞を読んでいる児童生徒は20%程度だが、中学校では11ptも上回るなど全国平均より多く、全国の児童生徒より社会への関心が高いといえる。

◎小学生では、地域行事に参加している割合が72%と全国より14ptも高い。これも町内の小中学校がコミュニティ・スクールとしての活動の中で、地域との関わりを持つ機会が多くなってきたことの成果と考えられる。

◎中学生では、「地域や社会をよくするために」という意識を持つ生徒がおよそ半数を占めている。このことも、コミュニティ・スクール等の活動を通じて、地域の方との関わる機会が多く、授業だけでは学べない、ものの見方や考え方に触れることで、御浜町の将来や郷土愛への関心へとつながってきたと考えられる。

4. 今後の町教育委員会の取組 =改善に向けて=

御浜町教育委員会では、今回の学力・学習状況調査の結果からわかる児童生徒の成長の様子や、町内小中学校の取組の成果や課題などの特徴をとらえ、具体的な施策に反映していく予定です。具体的には、次のように年間を通じて各学校の主体的な取組を支援する「授業力向上支援事業」を中心に学力向上の取組を進めています。

1. 授業改善に資する公開授業研究会の開催、全国や県内の「学びの共同体」の研修会参加や先進校視察

- ・「学びの共同体」の理念に基づいた授業改革を目指すため、著名な大学教授等を講師として招聘した公開授業研究会を、計画的・系統的に町内各小中学校において開催する。(各学校年3回の開催)
- ・学びの共同体研究大会、みえ学びのネットワーク研修会への参加や先進校視察など授業改革のための研修を深める。

2. 全国学力・学習状況調査・みえスタディ・チェックの活用と指導法の改善

子どもたちの自尊感情・自己有用感を大切にした指導をすすめ、前向きに挑戦し学び続ける児童・生徒を育成するため、全国学力・学習状況調査やみえスタディ・チェックを活用した事前・事後の取組をすすめ、その分析結果を基にした指導法の改善に取り組む。

3. 町全体としての組織的・系統的な研修体制の構築

校種や規模の異なる町内他校の公開授業研究会への参加・連携や、全国学力・学習状況調査やみえスタディ・チェックを活用した授業改善やその取組の共有・交流によって、町全体としての組織的・系統的な研修体制の構築をすすめる。

今後、県教育委員会と連携しながら、これらの事業を充実・発展させるとともに、見直しも図りながら、児童生徒の学力向上のための支援に取り組んでまいります。